チャペル週報

人の子は仕えられるためではなく仕えるために、
また、多くの人の身代金として自分の命を献
げるために来たのである。

（マルコによる福音書10：45）

春季宗教運動特集号
2010.5.17～5.21 No.6
関西学院宗教センター

☆チャペル・スケジュール☆

時間 10：35～11：05　　場所 各学部チャペル

5月17日(月) 神　中　島　　純（神4）
経　春の音楽チャペル　ゴスペルクワイアP.O.V.（Power Of Voice）
人　日本・トルコ学生交流プログラム報告
短大　聖書物語「預言者エリヤ」

5月18日(火) 大学合同チャペル（西宮上ケ原）10:20−11:20
「関西学院大学の教育思想」矢倉達夫（教務部長・理工学部教授）
於：中央講堂
大学合同チャペル（西宮聖和）10:20−11:20
「Holy Unionというキャンパス」小見のぞみ（聖和短期大学教授・宗教主事）
於：メアリー・イザベラ・ランバスチャペル（山川記念館2階）
大学合同チャペル（神戸三田）10:20−11:20
「メープルと紅葉・100年の歴史」Ruth M. Grubel（院長）
於：Ⅵ号館101号教室

5月19日(水) 大学合同チャペル（西宮上ケ原）10:20−11:20
「メープルと紅葉・100年の歴史」Ruth M. Grubel（院長）
於：中央講堂
大学合同チャペル（西宮聖和）10:20−11:20
「All（Mastery）for Christ（Service）」山内一郎（関西学院大学名誉教授）
於：メアリー・イザベラ・ランバスチャペル（山川記念館2階）
大学合同チャペル（神戸三田）10:20−11:20
「神戸三田キャンパスと建学の精神」松木真一（理工学部教授・宗教主事）
於：Ⅵ号館101号教室

5月20日(木) 神　今　井　孝　司（M1）
文　上ケ原フィルハーモニック
社　上ケ原ハビタットによるチャペル
法　音楽チャペル　聖歌隊
商　English Chapel　David Wider（宣教師）
国　English Chapel　Eun Ja Lee（宣教師）
総　高　畑　由紀夫（総合政策学部教授）
短大　吉新ばら（キリスト教教育・保育研究センター）吉田七穂（教務補佐）

5月21日(金) 院　榎　本　てる子（神学部准教授）
神　アジア・エキュメニカル週間を覚えて　COMAFAY Nicolle（NPO法人チャームスタッフ）
文　English Chapel　Andreas Rusterholz（宗教主事）
経　音楽チャペル　Timothy Dale Boyle（宣教師）
人　甲　斐　知　彦（人間福祉学部教授）
教　田　淵　　結（宗教主事）
理　「ガンガーのほとりで －生と死を見つめて」　松木真一（宗教主事）

◇ランバス早天祈祷会　毎金曜日　午前8：20～8：40　於：ランバス記念礼拝堂（上ケ原）
5月18日（火）宗教運動のために　　森　田　雅　也
5月21日（金）ペンテコステ（5/23）を迎えるにあたって　　平　林　孝　裕
◇総合政策学部早天祈祷会　毎木曜日　午前8：40～　　於：宗 教 主 事 室

春季宗教運動へようこそ

森　田　雅　也

さわやかな季節になりました。新緑が運んでくる風。キャンパスに降り注ぐ光。五感から昂じる力。この「風、光、力」の中でともに学び、語り合えることに喜びを感じますね。

日本では米を主食としてきました。春に田植えをし、秋に収穫する米は私たちの生命の源でした。

今年も田植えができる。老いも若きも早乙女とともに、歌い、踊り、秋の実りが豊かなることを祈ります。その心の中には、この土地を肥えた田にし、一つ一つの田に水をひいてくれた先祖への感謝と誇りが満ちあふれています。

関西学院も一世紀以上前に鍬をふるってくれた人々がいて、今日があるのです。嬉しいことです。

春季宗教運動はキリスト教強調週間であるとともに、関西学院あげての春の祭りです。様々な行事が予定されています。今年の春の統一テーマは「建学の精神」です。

全キャンパスでチャペルの時間を拡大して、たくさんの先生方からメッセージをいただきます。皆で誘い合わせて、気軽に聞きにいきましょう。

多くの学生団体やオルガニストの人たちから音楽の贈り物もあります。この日のために地道な練習を続けてくれました。さあ、ともに楽しみましょう。

学生も教員も職員も一緒になって、皆で「関西学院」の温故知新につとめ、ともに「関西学院」という「笈（おい）注・ランドセル。芭蕉が旅姿で背負っている絵。見たことないですか」を背負えることに感謝と誇りを覚えましょう。

「年年歳歳花相似　歳歳年年人不同」

学院の花々は今年も去年と同じように美しく咲いていますが、人は移りゆくものです。新入生や新しい教職員の人たちを迎え、今年の学院の彩りは、去年の春と装いを変えています。それは毎年、変わっていくでしょう。

何年か、何十年か先、あなたが関西学院を誰かの前で語るとき、「私は2010年の春季宗教運動のとき、あそこにいた」と、ちょっとだけ胸を張って下さい。

参加鶴首。Come and join us !

（文学部教授・宗教活動委員会委員長）

Maple and Momiji－One Hundred Years Ago

Ruth M. Grubel

Every spring, we enjoy the lovely new leaves that appear on branches that were bare over the winter. Here in Japan, some of the most beautiful leaves are on the momiji, or Japanese maple trees.

This year, Kwansei Gakuin is celebrating the one hundredth anniversary of relations with a country symbolized by another type of maple leaf. Of course, that country is Canada, and it was 100 years ago that the Canadian Methodist Church joined the American Methodist Episcopal Church South to support the young school with both money and personnel. In 1910, there were only 21 professors and 264 students.

As the first representative of the Canadian Methodist Church after it joined in support for Kwansei Gakuin, Dr. C.J.L. Bates was sent to teach at the Theological School. This means that 2010 is also the 100th anniversary of Dr. Bates' arrival at Kwansei Gakuin. The following year, Dr. Bates had been appointed as Dean of the proposed College of Literature and Commerce, which was opened in 1912. By the time he was forced to leave Japan because the war in 1940, the number of students had grown to 3000.

Dr. Bates had a profound influence on the development of Kwansei Gakuin through his leadership as Dean, and later as Chancellor of the entire school. His emphasis on academic excellence and character development was an important supplement to the theological focus of the Methodists from the United States. The school motto, "Mastery for Service," which he introduced in 1912, has been adopted and loved by all Kwansei Gakuin ever since.

Other fine Canadian teachers helped to build Kwansei Gakuin's reputation, and the Canadian Methodist Church was proud of the school's accomplishments. For example, Dr. Outerbridge, who also arrived at KG 100 years ago and spent most of his working life at Kwansei Gakuin, served in many responsible positions, and even played a central role in the move from the original Harada Mura Campus near Kobe to the Nishinomiya Uegahara Campus. When Dr. Outerbridge retired, his high expectations for Kwansei Gakuin were evident from these words he wrote in The K.G. Times, "Its purpose is to educate the type of young men and women which Japan needs most, - leaders of high moral character devoted to the unselfish service of human society."

As we admire the beautiful momiji leaves, let us remember the prayers and offerings by many nameless Canadian Methodist Church members who supported Kwansei Gakuin one hundred years ago, as well as the Canadian teachers who loved and served our school.

(Chancellor)

関西学院の教育思想と新基本構想策定

矢　倉　達　夫

「関西学院100年史」をひもといてみると、「リベラルな学風」とか「知徳兼備の教育」というような言葉が散見されます。学院の創立から30年ほど後（1921年）に就任したベーツ院長の院長報告が関西学院教育の基本理念を示したものとして有名です。彼はその中で“Mastery for Service”をスクールモットーとして示しました。「人間としての自立性と世に仕えて生きる在り方」をこの言葉で簡潔に表現したものです。このとき以来、関西学院はこの言葉をスクールモットーとして掲げ、これを実現するためにキリスト教主義教育を軸とした教育活動を展開してきました。　大学が発足した当時の学則には「基督教主義ヲ基本トスル人格ノ陶冶ヲ為シ以テ国家社会ニ有用ナル人物ヲ養成」という言葉が書かれています。

このような歴史から、関西学院大学の教育には専門教育と併せてキリスト教を軸とし、それに組み合わせるかたちでのリベラルアーツ教育や人権教育が重要であるといえるでしょう。しかし1991年に行われた旧文部省の政策変更（「大学設置基準の大綱化」）によって、教養科目が自由化され、多くの大学で教養部が廃止されると同時に多くの教養科目が消えていきました。関西学院大学も例外ではなく、全学で共通に開講されていた「教養科目」の多くが無くなったり、一部の学部で学部提供教養教育科目として細々と残っているという状態になってしまいました。

「大綱化」では、教養教育の重要性を否定したわけではなく、むしろ重要性が指摘されているのもかかわらずこのような状態になってしまったわけです。
関西学院大学では、学部が独立した形で個別の教育体系（カリキュラム）を作り上げてきたという歴史があります。法制による縛りがなくなれば専門教育と関連が薄い教養系科目が消えていったのは、当然の帰結というほかありません。

現今の学生の質の変化に対応するとともに、120年を数えた関西学院の次の将来に向けた飛躍を目指す新基本構想が策定されました。その構想の中に失われたものを取り戻し、さらに未来へ向けた関西学院大学の教育の在り方を模索する施策が最重要課題の一つとして掲げられています。　2008年度から始まった、この構想の策定作業に参加したのがつい昨日のように思われるほど日時の経つのが早く感じられた一年半でした。向こう５年間の教育の基本方針と実施のためのプランを立てるというとても背負いきれない課題を与えられ、戸惑いとあせりの連続の日々だったと振り返って見て思えます。その一方で、まだ半年しか経っていない新米教務部長でしたが、この作業を通じて120年の歴史を持つ関西学院の教育の根本を流れる思想とは何か、また次の100年に向けてどのような思想を加えるべきかについて考える時間を多く持てたと感謝しています。

（理工学部教授）

All for Christ

小　見　の　ぞ　み

関西学院、そして、聖和に至るいくつかの学校を創立した宣教師ランバス一家は、「不平を言うすべを知らぬ人たち」と呼ばれていたという。よく話しをする学生が、口癖のように「そんなん、ありえんし！」と言うのだが、不平や不満の言い方自体を知らないなんて、まさにありえない。だが関学の創立者ウォルター・ラッセル・ランバスや、その母メアリー・イザベラ・ランバスの歩み

に触れると、それはどうもありえるらしい。
メアリーは1853年20歳で結婚し、翌年、夫と共に中国宣教へと出帆。上海に到着して２ヶ月後にウォルターが生まれている。書くのは簡単だが、想像もできない。若いメアリーは、初めての妊娠５ヶ月で船に乗り込み、４ヶ月の船旅をして、異国の地、1850年代の中国で、初めての出産をしたというのである。それをメアリーは、米国の友人にこう書き送る。「一月ほど前に、わたしたちの心と手の中に、可愛い男の子を与えられました。とてもかわいくて、わたしたちは神様への感謝の心に満ちています。この子が立派に成長してイエスに従う忠実な僕になることが出来るよう、心から祈っています。」
1860年、メアリーは６歳のウォルター、３歳のジャネットを、教育のために本国の祖父母に託して中国へ帰国する。このとき、ウォルターはジャネットよりも母を恋しがって泣いたが、祖母が話をすると、「僕は、お母さんが中国に戻って中国の女の子たちを教えることをうれしいと思っている」と言ったという。1863年にはジャネットが猩紅熱で亡くなる悲劇に見舞われるが、一家はその小さなお墓を米国に残して再び中国へと帰っていく。それ以降、中国から日本へと宣教の場を変えてからも、この一家は自分たち家族の中に病弱と別れ、悲しみと死を繰り返し経験しながら、最後まで困難を極める宣教の働きを止めなかった。それで関学も聖和もここに建っている。どうしてそんなことができたのだろう。
聖和の建学を支える言葉に、All for Christがある。「すべてのことをキリストに向けてみる」ということだと思う。自分の見るもの、聞くもの、発する言葉も生き方も、イエスの方に向けてみる。現実の困難や自分自身の限界に向き合えば、それは恐れを呼び起こす。けれども、死よりも強い愛を生きたイエス・キリストを見つめるなら、どんなときにも恐れないで愛することができるのかもしれない。ランバス一家は、キリストだけを見つめ続けて、わたしたちに愛することと、この学園を遺してくれたのではないだろうか。

（聖和短期大学教授・宗教主事）

スクールモットー　All（Mastery）for Christ（Service）

山　内　一　郎

聖和大学は1880年、アメリカンボード（組合教会）のJ.E.ダッドレー宣教師らが創立した神戸女子神学校、1888年に関西学院の創立者W.R.ランバスの母メアリー・I・ランバスが開設した神戸婦人伝道学校（後にランバス女学院と改称）、また父ジェームス・W・ランバスがゲーンズ宣教師を後押して創設に関わった広島英和女学校（後の広島女学院）保母師範科を源流とします。そしてこの三つの女子カレッジが聖なる和合（Holy Union）を果たし、1941年、聖和女学院が誕生しました。そして今日まで130年の意義ある歴史が刻まれ、昨年、若ランバスが1889年、神戸に創立した関西学院がそのHoly Unionにジョインしたわけすが、両校はランバスファミリーが米国の南メソジスト監督教会（MECS）を母教会とする縁で歴史的に同根の繋がりをもち、18世紀の英国で興った宗教改革、メソジスト運動の祖ジョン・ウエスレーによる提唱「知識と愛の再結合」あるいは「全年齢層を対象とする全人教育」という根本理念を共有しています。それ故、私たちのユニオンは単なる経済行為としての合併という次元を遙かに超えた大きな夢のある「ヴィジョナリープロジェクト」であります。
天の時、地の利、人の和に適った今般のユニオンを跳躍台として、両校が互いに補い合い、健全な体質強化あるいは相乗効果を生み出し、幼稚園、保育センターおよび初等部、中・高・大、大学院、専門職大学院を擁する一貫教育体制のさらなる拡充・強化を図ることによって、「キリスト教主義」に基づくわ

が国有数の総合学園「再創造」に向けて大きな飛躍を遂げることが期待されます。

私学の生命と使命は「建学の精神」に宿っています。そして私たちは「建学の精神」を象徴する両校のスクールモットー“All for Christ”（聖和）と“Mastery for Service”（関学）が深いところで響き合っていることに改めて気づかされます。心を集中し、聖書のメッセージに聴きながら、その今日的意味を考え、関西学院聖和キャンパスで学ぶ互いの内的姿勢を整えたいと思います。

（関西学院大学名誉教授）

「マスタリー・フォア・サーヴィス」の影響史

松　木　真　一

「マスタリー・フォア・サーヴィス」という言葉は、入学以来たびたびお聞きになったことと思います。関西学院の建学の精神を端的に言い表した一句ですが、個人的には忘れられない思い出があります。私は中学部出身です。その中学部入学時のオリエンテーションが千刈キャンプ場でありました。真夜中に突然、先輩たちから全員呼び出されて（当時「ストーム」と言っていました）、この言葉の意味と校歌「空の翼」の厳しい指導を受けたのです。マスタリー・フォア・サーヴィス＝奉仕への練達っ！と。全員で校歌を歌わされているときも、この一句が繰り返し出てきたのです！もちろんその意味など分かるはずもなかったのですが、それにもかかわらず何か体の中に深くしみ込んでしまって、以来今に至るまで自分の体の一部になってしまった、という感じでいます。

私の属する理工学部の卒業生が言っていました。「関学の思い出の中で、このマスタリー・フォア・サーヴィスという言葉が一番心に残っている」と。そうなんです。同窓会に出ても、いろいろの卒業生に会っても、そのような印象をしばしば耳にします。

最近よく思うのですが、関西学院は周知の通り120年の歴史を歩んできた伝統校です。しかし同時に、このマスタリー・フォア・サーヴィスという言葉自身もまた、その言葉の「歴史」を重ねてきたのではないか。創立以来、それぞれの時代に関西学院で過ごし学んだおびただしい数の人たちの心の中に、この言葉がそれぞれの状況と場に沿った形で働きかけ作用し、直接にも間接にも影響を与え続けてきた、そうした影響の歴史を重ねてきたのではないか。順調な時代にも激動の時代にも、飛躍的な前進の時にも危機の時にも混沌の時にも、学院で学び社会人になった一人ひとりの心に、行動に、考え方に価値観に、そして生き様に人生観に何らかの、あるいは深い影響力を持ち、時には人生の支えとなり、また道を切り拓く指針となる、そのような仕方で影響を及ぼし続けてきたのではないのだろうか。さらに、そのことを通して自分の家庭に職場に、社会に地域に、また日本や世界各地に影響の輪を拡げてきたのではないのだろうか。

マスタリー・フォア・サーヴィスという言葉を、120年もの長い歴史の中で大勢の人々に影響を与え続けてきた影響の歴史を背景にして、その歴史を踏まえて、今一度この言葉を新たに聞き取り受けとめるとき、一層深い意味と重みと価値を読み取ることができるのではないでしょうか。

今始まったばかりです。一人ひとりの関学での生活が、この言葉を軸に学院での様ざまな学び、研究、友との出会い、先生との出会い、クラブ活動などすべての経験によって、深い影響を受けることでしょうし、あるいは人生を左右する決定的な影響を受けるかもしれません。大いに期待しつつ楽しみにしつつ、共に歩んで行きたいと願っています！

（理工学部宗教主事）

●ランバスチャペル・ヌーンコンサート

西宮上ケ原キャンパスのランバス記念礼拝堂では、５月に入りますと学生音楽団体による恒例のミニコンサートが開かれます。お昼休みのひととき、どうぞ耳を傾けてみてください。

５月18日（火）関西学院グリークラブ
５月20日（木）関西学院交響楽団管楽アンサンブル
５月25日（火）関西学院バロックアンサンブル
５月27日（木）関西学院聖歌隊
５月31日（月）関西学院交響楽団弦楽アンサンブル
６月１日（火）関西学院大学応援団総部吹奏楽部
６月14日（月）関西学院ゴスペルクワイアPower Of Voice
６月15日（火）関西学院ハンドベルクワイア

いずれも12時50分から13時20分まで、ランバス記念礼拝堂（上ケ原）にて。

●チャペル・オルガニスト募集

関西学院では毎年チャペル・オルガニストを募集しており、本年は５月29日（土）にオーディションを行います。採用されますと個人レッスンを受けることができ、チャペルの奏楽はじめ、発表会、研修会、コンサートなどを通して教会音楽を中心とした幅広い知識、技能を身に付けることができます。

応募方法：「募集要項」「応募用紙」を吉岡記念館事務室宗教センター、神戸三田キャンパス事務室（Ｉ号館キャンパス担当）、聖和キャンパス事務室（１号館教育学部担当）で受け取り、オーディションの応募用紙を提出してください。電子メールの添付ファイルでも受付します。

☆「募集要項」「応募用紙」がダウンロードできます。
http://www.kwansei.ac.jp/c_christian/index.jsp 学生団体の紹介 にあります。
応募期間：４月26日（月）～５月27日（木）の事務室開室時間
お問い合わせ・資料請求：吉岡記念館事務室宗教センター
電　　話：0798－54－6018、E-mail：organist@kwansei.ac.jp

●文化総部書道部 「聖句展」

と　き：５月17日（月）～21日（金）9：00～16：30 ＊月12：50から 金12：50まで
ところ：吉岡記念館１階ラウンジ

●ランバスチャペルアワーのお知らせ

学部の枠を超えて集まった学生主体のチャペルがランバスチャペルアワーです。

と　き：５月25日（火）10：35～11：05
ところ：西宮上ケ原キャンパス　ランバス記念礼拝堂
テーマ：「千刈キャンプとキリスト教」

●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急梅田駅から徒歩すぐ、アプローズタワー14階の大阪梅田キャンパスでは、授業期間中の毎週金曜日にチャペルアワーを開催しています。
（18：00～18：20　１４０５教室）

５月21日（金）田淵　結（宗教総主事・教育学部宗教主事）
５月28日（金）アンドレアス・ルスターホルツ（文学部宗教主事）

●関西学院会館の日曜礼拝

授業期間中の第二・第四日曜日に、教職員と学生有志による礼拝が行われます。一部英語を用いる形式です。どなたでも参加できますのでどうぞお越しください。

５月23日（日）　午前10時～11時
関西学院会館ベーツチャペル